



社会を変えるお金の使い方を考える

地域円卓会議

那覇市で始まった「那覇市版 SIB」(成果連動型助成)の
中間報告を通してお金の出し方・使い方をみんなで考える

実施報告書

日 時： 2025 年 2 月 8 日 (土) 10:00-13:00 (受付開始 9:30-)
場 所： 沖縄国際大学 厚生会館 4 階ホール (沖縄県宜野湾市宜野湾 2 丁目 6-1)
主 催： 那覇市
企画運営： NPO 法人まちなか研究所わくわく
協 力： 公益財団法人みらいファンド沖縄、ミチシルベ 2025 実行委員会

報告書作成
NPO 法人まちなか研究所わくわく
公益財団法人みらいファンド沖縄

ACTIVITY REPORT

【報告】社会を変えるお金の使い方を考える地域円卓会議



■日 時：2025年2月8日（土）10:00-13:00
■場 所：沖縄国際大学 厚生会館4階ホール
■着席者数：9名（論点提供者、司会、記録者含む）
■参加者数：80名（NPO、企業、行政、議員等）

■主 催：那覇市
■企画運営：NPO 法人まちなか研究所わくわく
■協 力：公益財団法人みらいファンド沖縄、
ミチシルベ2025実行委員会

論点提供

屋比久 尚也（那覇市市民文化部まちづくり協働推進課 課長）

上原 正弘 氏（一般社団法人 琉球フィルハーモニック 代表理事）

城間 えり子 氏（労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団 沖縄事業所 組合員）

那覇市で始まった「那覇市版 SIB」（成果連動型助成）の 中間報告を通してお金の出し方・使い方をみんなで考える

「那覇市版 SIB（ソーシャル・インパクト・ボンド）」とは、地域内で SDGs 達成につながる協働活動を創出し、持続可能な地域社会の実現を目指す新しい資金循環の仕組み（成果連動型助成）です。助成対象団体と市であらかじめ成果目標を設定し、その活動資金の調達に市民・企業の出資を働きかけるという取り組みで、那覇市では令和6年度から進めています。今回の円卓会議では、今年度の報告を通して、市民参画を促し、より成果をあげるためのお金の出し方と使い方について考えます。

センターメンバー



屋比久 尚也
那覇市
市民文化部
まちづくり
協働推進課
課長



上原 正弘
一般社団法人
琉球フィル
ハーモニック
代表理事



城間 えり子
労働者協同組
合ワーカーズ
コープ・セン
ター事業団
沖縄事業所
組合員



野池 雅人
プラス
ソーシャル
インベストメ
ント株式会社
代表取締役
社長



饒波 正博
なは市民
協議会
代表



井上 慧
沖縄振興開発
金融公庫
融資第一部
地域振興班
席調査役



古謝 玄太
那覇市副市長

なはSDGs推進事業

社会を変える お金の使い方を考える 地域円卓会議

那覇市で始まった
「那覇市版SIB」(成果連動型助成)の
中間報告を通して
お金の出し方・使い方を
みんなで考える

主催 那覇市 企画運営 NPO法人まちなか研究所やいらく
協力 公益財団法人みらいファンド沖縄、ミチシルベ2025実行委員会

2025.2.8(土)
10:00~13:00
@沖縄国際大学
厚生会館 4Fホール

15分15分

地域の困りごとを
社会課題として共有できる
場所

屋比久 尚也 てん

《論点提供》
那覇市お助け協働
推進課 課長
1993 入庁

協働によるまちづくり

様々な主体の参画による「協働」で
地域課題を解決

2024年度
なはSDGs推進事業
～様々なつながり地域づくり～

《導入理由》

- ① 様々なお金を使った社会への貢献
「お金」とした市民参画により、関わる人たちが
連帯することで、活動の効果を高めることができる
- ② 市民活動
なは市民活動支援センター登録 約400団体
相談 お金5割 仲間あめ4割
- ③ 活動資金の種類 ～助成金とSIB～

助成金

助成金(市) → 事業実施者 → 対象者

メリット

- 負担軽い
- 目的に合わせた事業採択

那覇市版SIB

- 応募者・仲間みえる
- 効果的・予算活用
- 元本と分配金入る

R6	SIB実証	R6 助成事業
R7	SIB実施・検証	
R8	～毎年度SIB実施	

① 琉球フルタイムモニタ
テーマ 部活動の地域移行

② ワークス・コーポレーション事業団
テーマ 多世代型の
居場所「よりみち」



上原 正弘 さん

(一般社団法人 琉球フイルム・モニター 代表理事)

那覇市における部活動の地域移行に関する調査及びモデルケースへの模索

吹奏楽部

指導する先生方

苦勞

子どもたち体験保障

音楽による子どもの

居場所づくり

地域

学校の連携

文科省

すべての部活動で移行している(公立中)

1.9%

部活動指導の負担感

帰宅時間
おそくなる

89%

大会引率

教材研究
兼ね時間
なくなる

吹奏楽部

若狭地域

文化系 人数多

指導員 2人

活動場所 楽器の確保

管理・メンテナンス・運搬



城間 えり子 さん

労働者協同組合ワーカーズ・コ・オペ、センター事業団
沖縄県労働組合員

支援活動→居場所/地域の中で重要な役割ある

ワーカーズ・コ・オペで居場所づくり

資金と仲間どう集めるか

仕事おこし⇒『みそ』をつくらせる

協同労働

出資 意見反映
ともに働く

居場所の財源へ

2023.12 みんなのおうち・よりみんな

居場所
づくり

おかしある〜?

仕事
づくり

みそ100円
売った100円

地域
づくり

おき協 民生委員
7-11まで

- 多世代型コミュニティの居場所づくり
- 豆腐製造から出るおからの有効活用
- 地域ブランドの構築、新しい食文化
- 新しい働き方の提案(協同労働)
働きと通した生きがいづくり

地域コミュニティ再構築の必要性
地域づくり

おからみそどこ製造事業

- ① イベント出展
- ② 試食を通じたマーケティング・マーケット調整
- ③ 公式LINE⇒102名
- ④ 地域へのニュースター
- ⑤ サポータークラブ
- ⑥ 商品開発(おからみそ)
- ⑦ 就労者を増やす50%

持続可能で新しいコミュニティビジネスモ!

次年度 体験型/おでかけ

地域団体
ネットワーク

地域住民
参画

お金
出資

仲間
づくり

人材

より良くみとめるために
3行をみてください

カミ
評価者

受益者

SIB事業者

公共

投資家



野池 雅人 さん

ソーシャルインベストメント株式会社 代表

那覇市版 SIB のしくみづくり

金融会社のしくみが重要

お金の課題

応接の選択肢をふやす

社会的投資

市民活動・ソーシャルビジネスへ

ソーシャルインパクトボンド (SIB)

2010: イギリス

2017: 神戸市・八王子市等

現在
100ヶ所

成果連動型補助金としての SIB

「行政コスト削減型」
SIB

福祉・医療・予防

「インパクト創出型」
SIB

まちづくり分野

事例: 東近江市

① 多くの人の参画のデザイン

② 成果指標(目標)設定



饒波 正博 さん

なは市民協議会 代表

SIB 5年前、ナカラケイスケ議員から来た

「かちうまにのることじゃないの?」

→ おうそん団になって帰りたい

コストカット
からの
目標
だった

出資 期待と責任がある

リスクとリターン

緊張感 成果って何だろう
気になってくる

1~2万円: のりやわ

自分のお金を出したことによる

成果だせなかったとき、どうなるの?

いゝ意味で口出せる(した)



井上 慧 さん

沖縄振興開発金融公庫

公民連携・地域振興

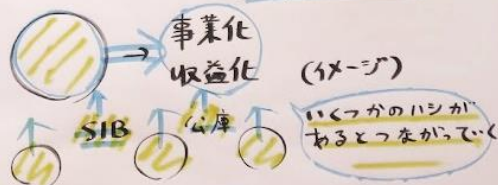
SIB 含れる PPP/PFI など
これから

社会的課題の解決

ひとり親支援
融資金利の低減

R6 新しいメニューづくり
取り組んでいる

事業としてキドウにのるまでのプロセス
の中の SIB



古謝玄太 さん

那壘市副市長

2年2ヶ月前 副市長に

SIB 行政コスト削減 → どこまでできるか
確信なかった。
手回がかかる → 効果
まち協議会から
あがってきて、やってみた

効率性より

効果的な事業にいくもの

応援団ができる。

成果着目型 まわりに説明する
→ 応援してくる人々

行政やる価値でてる

サブセッション

出資と投資のミックス

つたがりの可視化 $\times 911 - \lambda$ $\rightarrow h \text{ ㄱㄱ}$
 $\gamma - h \text{ ㄱㄱ} \approx \bar{\gamma}_1$ ㄱㄱ

資金もいかに調達したか

SIBは市民向けのPR

社会課題の共感性が高いもの

関係人口が増えている

大学生のまきこみ

SIB かわり 750

カガヤク 青い糸 - ミニグ' 1304

1年目
調査

“四卓会”

成果
指標

天慙

2000

事業者

しんせき年貢・行政と
ブライシュツツ

成果運動型
2ヶ-11 文字にて
いふことも
みずくまで

指標について
へ参加

まちづくりしている
人にとって、
頭の整理になる
参加したい

お金からむかし
もりあがる

どうしようと
口だしてきる

(上原)

ちよとドキドキ
 い3い3みえる4かえ
 名称はどうするか。
 出資とお願ひする2き
 わかりやすく。
 行政のバツグンが重要
 コロの存在が1
 リターンが お店のコナ
 おれコナ
 お金ではなリターン

(城廂)

みそ/居場所事業
不可分
みそと通いの地域内
やりかたによって場所
地域の旨々に
うまいてきてくれること
目指したい
声とひろくついでできる
SMSの発信でも
全国のワークアップ注目
されている

(屋比久)

楽にしようと事業されている。
のは、ムネ庵様国に
2つの事業 → しみずけりまや、てく。 (透明性 説明責任)
子どもたちの参加を得たい。声届るように

(司令:4星)

考画設計 → 応援のバリエーション
 関係者がどれだけ増えたか、おこされたか。
 全体の関係性をとらえみる
 市の評価どうみるか。
 市民が政策に参画できる仕組みになるかも

まき二み
応援団

リターン
曲をリクエストしたい
400円はいいわけじゃな
もって応援団をつくる
し(みにつなからった)

50人 → 100人
↓
200人

■今後のアプローチの方向性

- 1) 本事業の成果指標は、まちづくり協働推進課の目的に沿った、市民協働や市民参画を測るものとすべき。売り上げや寄付金収入等も重要だが、様々な市民による当事業への参加と協働のパートナーとしての関与など、SIB への出資者のみならず、その周辺の様々な参画も丁寧に拾えるような成果に着目した評価設計を目指したい。
- 2) 新しい成果連動型助成事業の仕組みとコンセプトを、市民や関係者に伝えることで、この事業が目指す市民が SDGs の達成につながる地域づくりに積極的に関わっていく社会について、那覇市のあらゆる場所で行われるような場作りも目指したい。
- 3) 採択された 2 団体の事業を伴走しながら、この事業が団体にどう理解されているのか、どう活用されるべきなのかを確認することで、来期の公募の精度と社会へのインパクトを最大化していく試金石としたい。

■参加者によるサブセッション

那覇市で始まった「那覇市版 SIB」(成果連動型助成)の 中間報告を通してお金の出し方・使い方をみんなで考える

(参加者記載の原文をそのまま記載している為、事実と異なることがあります。グループ毎に①、②・・・と記載)

①

感想 (good)

- ・ 巻き込み型でいいなと
- ・ 助成金の自由度の高さ
- ・ 出資で自分ごとになる
- ・ 成果指標(内容、期間)の設定が難しい
- ・ 仕組み自体の持続可能性
- ・ 出資の金額設定が1万でいいのか

アイデア

- ・ 中間報告(出資状況、取組状況など)
- ・ 出資だけでなく寄付もあるといい

②

- ・ 資金をいかに調達しないか
→効果がすべてインパクトになる
- ・ 無料はリスクが0
- ・ 企画に魅力があれば出資につながる
- ・ 800万、3100口

③

- ・ 成果を連動させる、継続させる仕組み
- ・ 生きがいづくり
- ・ 地域貢献
- ・ 地域での共有化
- ・ 活動するためにどこに相談したらよいか

④

- ・ 持続・継続する仕組み
- ・ 行政を外部も一緒にできるよう

⑤

- ・ 場所と物はハードル有
- ・ 市民向けのアピールが下手→SIBの活用

- ・ つながりづくりも必要
- ・ 社会の課題が顕在化した時、上手くそれを見せられたらお金は集まる
- ・ 成果報告も活動が活発ならハードル低
- ・ 社会の課題にひもづく共感性の高いものをテーマにやりたいことを「金」にたくしている、という実感

⑥

- ・ 事務所代→コストになる
- ・ シニア世代→孤立問題
- ・ よりみんな
誰でも受け入れる場所
↓ 適切な場所につなげる
こどもたちの喜ぶ顔が嬉しい
- ・ 小学生、中学生、(特支生)
- ・ →推し活?
- ・ →自分たちが出資した先のエンドユーザーの喜ぶ顔が見えるといいかも

⑦

- ・ 出資と投資の考え
- ・ ミックスしたしくみあってもいい
- ・ “賛同” “リターン”
- ・ “ゲームづくり” 楽しんでもくれたら
- ・ つながりの可視化—LINE、ゲーム
- ・ 地域連携とゲーム コミュニティ、(多世代)
- ・ メタバースの世界
- ・ (株)HYKKI (引きこもり)

⑧

- ・ 声の大きい人対策
- ・ リクエストしたい
- ・ 遺贈と似ている

- ・ クラファンと似ている

⑨

- ・ どのように活用を周知するか
- ・ カタログが必要では？
- ・ 思いなど文字情報以外も必要
- ・ 定期的なコンタク会→いつものメンバーばかりで広がるかな
- ・ 投資というよりは助けたいという気持ち
- ・ 出資目的は多様でいいのでは？→リテラシー
- ・ ふるさと納税も厚型にできる？
- ・ 財源が減る中で SIB は重要→行政に
- ・ SIB は使途が自由なので使いやすい
- ・ みんなで事業進捗を管理できる

⑩

- ・ おからみそ
- ・ OEM で上原さん受けられそう（クチャパック）
- ・ 貧困
- ・ きづなの支援
- ・ システムつくるのか
- ・ きづなの再構築
- ・ 孤立支援
- ・ 親支援
- ・ 男性の未婚率
- ・ 孤独死多い

⑪

- ・ よりみん 地域づくりとの掛け合わせ
- ・ 「リターンはおみそ」楽しめる出資の方法
- ・ 高齢者の方がつながれるように福祉×音楽
- ・ つなげる人は誰なのか？
- ・ 出資者にバラエティがあっても
- ・ 「リターンは出資者だけのコンサート」→お子さまにつながる
- ・ 最初の 3Y 補助金
- ・ ヤマハからリース 100 万単位

→ヤマハの対応も変わった「勉強してよい」
⇒「いっしょにつくりましょうよ」

⑫

- ・ 仕様書をつくり込むのではなく成果の可視化を重視していることがよい！
- ・ 市民に理解を得るには、市などからの保証が重要
- ・ 心配事
①市民に伝えて理解いただくこと、②出資
・ 50 万×2 件に予算 1200 万かかることの妥当性
- ・ “もあい” とつなげて説明するといいいのでは？→信頼にもとづきお金がまわる

⑬

感想

- ・ 社会課題解決のため！
- ・ 成長型でうごいているけどお金が切られたらどうしよう
- ・ SIB を通じて周知したかった
- ・ 東近江式でやりたい！
- ・ 地域では取り組んでいる人いっぱい！
- ・ 「関係人口」が増えるのがいい！
⇒そこから支え合いにつながる
- ・ 今関わりがい希薄になっているから SIB を使えるかも？
- ・ SIB の新しい可能性を感じた
(小さいことでいいんだ)
↓
- ・ 市民が小さく支援できるのもいい！
- ・ 学生でも子どもでもできる
- ・ 循環

SIB を広めるためには

- ・ 親しみやすい名前？沖縄らしいネーミング
- ・ お金じゃないバックは？
- ・ お金をはらうだけじゃない関係性づくり
(ついでに見に来るとか)

⑭

- ・ 見せる支援
- ・ 本当の仲間→高めるためのもの
ゆるく楽しいつながりとは芸術だと異なる→こだわり大
- ・ 仲間づくりの選択肢→選ぶかどうかは自由
- ・ 独自でファンド集めるところもある
- ・ NPO→お金の話しづらい
- ・ 志高い人たちを集めたくて（株）つくったりしてる
- ・ SIB を会社の中の部分的に使う
- ・ 1 万にすることでライトに投資、応援できる
- ・ 地域に投資したい声がある

■参加者からのアイデア

出資したくなる活動のアイデア

(入力フォームからの回答)

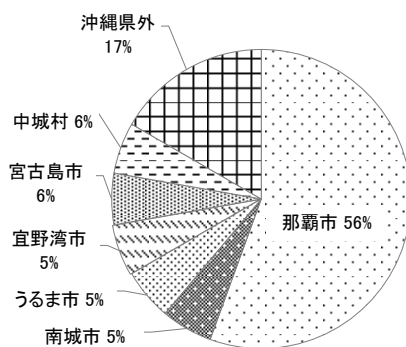
- ・ 地域のためにがんばっている、地域の子どもが元気になる、貧困率が下がる、など、手触り感、目に見える効果が感じられる活動
- ・ 味噌作り体験イベント
- ・ リターンは2%で適当だと思う
- ・ 味噌のブランドをつくりたいので OEM が可能ならお願いしたい。
- ・ 子供達が笑顔になる現場に参加できる。あるいは、変化をみれるといい。あるいは見なくてもモノでもいいと思います。
- ・ 経営コンサルタントとして支援したい
- ・ “みそ債券”を発行してもらい、応援したいと思いました。
- ・ SIB で事業を行なった際、IMM の可視化が共有されるとわかりやすいと思います
- ・ 進捗が都度わかり明瞭で、ますます応援したくなる
- ・ 活動団体と出資している方、出資している方同士の交流があるとうれしいです
- ・ 1 誰がどのように困っているか、イメージができる情報がある、助けたくなる受益者がいる(○と▲の制度でもまかなえなくて、社会の狭間にいる等) 2 活動している人の思いや人柄が見える 3 リターンよりも、それが成功したら、誰がどのような新しい未来、より良い生活ができるようになるか絵が見える
- ・ 事業への投資と、皆さんの気持ちに人に寄付したいなと思いました。特に城間さんのアイディアやバイタリティとの意見交換があれば、参加費(志金)を払いたいと思いました。
- ・ 出資金をもとにした取り組みにより、その取り組みの受け手の変化が実感できるのであれば出資したい。実感できる見える化の仕組みが提示されていれば出資意欲は増す。
- ・ 出資しやすい仕組み、デビットカードや LINE などの PAY システム、いつでも手軽に送金できるシステム。クレジットカードやポイントカードで貯めたポイントなども出資できたらいいなど。昔、婦人会などで頑張ってた地元産の食べ物や便利グッズ、などを公民館・自治会・地域の居場所で生産、それを販売するルート(場所)の提供など。地域全体で分脳できるように協働。
- ・ 資金調達と PR (マーケティング) などの計画の具体性で、広がるかも、大きくなるかもという“匂い”をさせること。
- ・ 進捗状況が随時わかるようなクラファンのようなシステムの導入
- ・ 想いの共有、方向性プロジェクトをどう進めていくかを考える上で、応援者が増える事がいいなと思っている所の良さと、意見の食い違いもありそうだなと思いました。例えば、スピード感などもありそうだなーと思った。
- ・ 誕生月イベントを開催して、曲をリクエスト出来る

社会を変えるお金の使い方を考える地域円卓会議 参加者アンケート集計

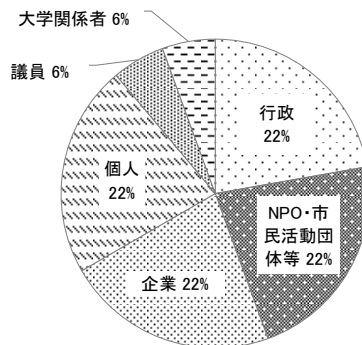
◆概要

- ・日時：2025 年 2 月 8 日（土）10:00-13:00
- ・場所：沖縄国際大学 厚生会館 4 階ホール
- ・着席者：9 名（論点提供者、司会、記録者含む）
- ・参加者：80 名（NPO、行政、企業、議員等）
(アンケート回収 18 名、回収率 22.5%)

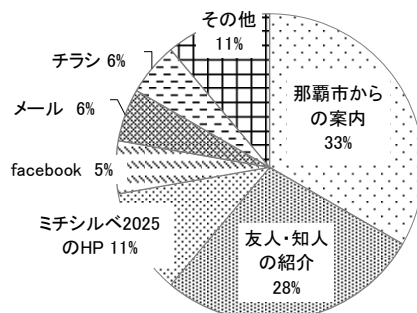
1. どちらから？



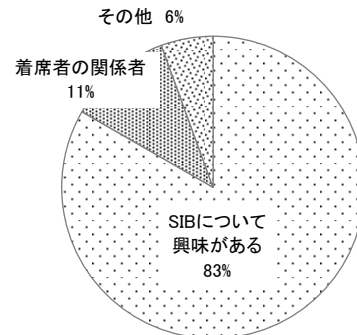
2. 所属



3. 円卓会議はどのように知ったか



3. 参加動機



4. 満足度

平均：4.5（5点中）

5. 満足	4. 概ね満足	3. 普通	2. あまり満足していない	1. 不満足
11 名	6 名	0 名	1 名	0 名

5. 満足度の理由

（5. 満足）

- ・ 市民巻き込み型で事案を進める那覇市版 SIB の企画がすごく面白かったです。こういった街づくりに関われる場をもっと作ってもらえれば嬉しいです。
- ・ SIB にかかわる、様々な角度からの意見がきけてよかった。
- ・ サブセッションで、より沖縄らしく、市民が受け入れやすいしくみづくり、ネーミングに話が集中したのもとても前向きでいいと思った。
- ・ SIB に関する様々な視点を知ることができてよかった。
- ・ 前日よりも解像度が増して具体的になった。展開としてイメージしやすくなった。
- ・ あまり知らない中での参加で不安だったが、とても勉強になり市民、地域を思っている活動

に感動し、とても良い会でした。

- ・ 市全体に広がる取組が増えるといいなと思います。
- ・ 円卓会議の進め方が大変勉強になった。副市長にさん付なのが印象的だった。
- ・ SIB について知ることができてよかった。地域課題に関して自分事として取り組むきっかけ、関われるので良いと思いました。
- ・ 部分的な参加になってしまったが、最近の取組である SIB について、それぞれの立場の関係者から実際の話が聞けてイメージアップができて勉強になった。
- ・ 本イベントに参加して、那覇市の SIB について関心を持とうというキッカケになった。
- ・ 実際の事例や仕組みがわかりやすく説明されていたので。
- ・ 堅いテーマを議論するのに、和やかな雰囲気づくりがなされていたこと。
- ・ 成熟した未来に向けての第一歩を那覇市がすすめていることに感動と誇りに思った。

(4. 概ね満足)

- ・ それぞれの方の発表に意味があり学びがありました。特に城間さんのお話、展開、感動しましたし、これから期待しています。-1 と思ったのは、ジェンダーバランスが、片寄りあり残念だと思いました。
- ・ SIB へのチャレンジが伝わりました。
- ・ SIB の仕組みについての認識ができた。
- ・ 色々な面から SIB を見ることができた。
- ・ 良い勉強になった。助成金のあるべき使われ方(スキーム)、「協働」を知れた。
- ・ たくさんの意見の出る会議だった事。

(2. あまり満足していない)

- ・ 論点議論の時間がなかった。

6. 円卓会議で印象に残ったこと

- ・ 個人的な意見になってしまいましたが、すごく良い企画だと思うので、今後も続けて欲しいです。その為に成功させて欲しいと思っています。

ます。議論の中で「インパクト」という言葉が印象に残っています。

- ・ インパクトを作りだすためにもコミュニケーションの質と量を上げる為にも、出演者自身も周りを巻き込みたくなる様な仕組み作り(インスタの活用など)や、密な経過報告を出資者に行う仕組みづくりをしても面白そうだと思いました。
- ・ “アイデアでいいと思った。→子どもをまきこんだ SIB の実施(出すがれ、アイデアも)
- ・ 印象→被支援者が、「成果」とネガティブにとらえず、自分たちのモチベーションにつながっていると、笑顔でいっていたこと。
- ・ 課題設定と事業の周知に工夫する必要があると思った。
- ・ ネーミングの決定、市民が口を出せる、成果、効果が求められるということには良さを感じました
- ・ 関係人口。
- ・ SIB(ナハ市版)の事業の振り返りや評価を市民に公開していることが素晴らしいと思いました。
- ・ 助成金で動かざる NPO 団体が多い中でお金の使い方まわし方等の実践している団体の活動は、モデルケースとして、良かった。特に仕事つくりと居場所、地域づくりをタイアップさせている。
- ・ 多様な評価軸。
- ・ SIB が沖縄でいう「模合」のようなものだという説明は言い得て妙だと感じた。横文字や英字略語よりも市民の理解にも繋がるのではないかと。また、採択事業者が「選ばれたことでモチベーションアップになる」と述べていたが、単に金銭的な仕組みに留まらない効果がある点が印象深かった。
- ・ セッション 1 後のアイデア出しで QR を読み取れなかったが、ふるさと納税のように自分のお金の使われ方を指定できると良いので

はないか。また、資金提供のリターンをお金か物かで返さないといけないと限定して考えず、事業の成長そのものがリターンであるとして、投げ銭のような(配信者へのスーパーチャット、アイドルへの投票 CD 購入などのイメージ)“応援の気持ち”をいただいても良いのではないだろうか。

- ・ 地域のお困りごとに寄り添って、伴走されている事例紹介が多くとても共感しました！
- ・ SIB 事業者の方からのご説明が具体的でわかりやすく、また、楽しみながら活動を進められているところが印象に残った。
- ・ 副市長が、成果主義ではなく成果着目主義という意見に納得した。今までは助成金をとるが目的になってしまう、手段が目的化するといった課題や、課題への対処療法でしかなかった活動が、根本的解決につながる取り組みだと感じた。
- ・ 自分はなにかをしてもらう側ではなく、する側なんだという意識を持った人たちが増えることで少しずつ連鎖していくと思っています。これからが楽しみでワクワクしました！
- ・ 目標指針の見える化 応援者の数で表す

7. 運営についてご意見、感想等

- ・ 参加者同士で議論する場を設けて頂いたの
で、より事業に対する理解度が深まりました。
楽しかったです。
- ・ 開かれた会ギでは、登壇者のお水、、ペット
ボトル使うのやめてほしい。缶やピッチャー
でできたらいいな。
- ・ 時間通りで終了するのは素晴らしいです。
- ・ 那覇市役所の皆さま、まちわくの皆さま、運
営お疲れ様でした。当初のボヤつとしたイメ
ージから、明確になり私自身が学んだ機会で
した。
- ・ 司会進行が大変スムーズだった。
- ・ 模造紙への記録も綺麗にまとめていただい
ていた。運営の方々に感謝したい。
- ・ 模造紙の記録は事後にどこか（ホームページ
など）で確認できるのだろうか？
- ・ 終始柔らかな雰囲気づくりがなされていて、
とても印象的でした。
- ・ とてもいい運営でした。
- ・ トイレ休憩や、飲み物が飲めなかったので、
計算ミスでした。
- ・ 参加してよかったと思える会議でした。

(写真) 会場の様子



感想 (good)

- ・ 巻き込み型でいいな
- ・ 助成金の自由度の高さ
- ・ 出資で自分ごとになる

(?)

- ・ 成果指標 (内容・期間) の設定が難しい
- ・ 仕組み自体の持続可能性
- ・ 出資の金額設定が1万でいいのか。

アイデア

- ・ 中間報告 (出資状況・取組状況等)
- ・ 出資だけでなく寄付もあるといい。

資金をいかに調達するか

→ 効果がすべてインパクトになる。

無料はリスクが0

企業にメリットがあるかは
出資によって決まる

800万、3100万

成果を連鎖力

させる、継続
させる仕組み

- ・ 生かしていく/
地域・ネットワーク
地域での共有化
- ・ 活動力するため
ゼミに相談したりとか

・ 持続・継続
する仕組み

行政と外部を
一箱にできる方

場所と物はハードル^有

市町村のアピールが下手
つてカリづくりも必要.)

573の38月

社会の課題がワンズ化
した時、上手く見せ
るためお金は必要.

成果報告も活重か
活発なハードル^低

社会の課題にそれぞれ
共感性の高さを

テーマ

やりたいところ「金」に
なくしてよ、という実感

事務所代 → コストになる

シニア世代 → 孤立問題

・エリカ

誰にも受け入れられる場所

小学生

中学生

(特友生)

→ 推し活?

↓ 適切な場所
ついでに

子どもたちの喜ぶ顔

嬉しい.

→ 自分たちが投資した先のエンド
ユーザー
の喜ぶ顔が見えるといいかも.

・出資と投資の考え ^{(4-12-12) (12-12)}
みくすしたしくみある...

「共同」"19-2"

・"1-1-1" 集んでくた
「フタリ」の可視化 ^{LINE}

・地域連携とゲーム ^{フタリ}
"Xタバー" 世界.

・(株)HYKKI ⁽¹²⁻¹²⁾

・声の大きい人対策

・リクエストしたい

・差支と似ている

クラファン "

・どのくらい活動を知ってるか

・カタログが必要かな？

・思いなど文字情報以外も必要

・定期的に24時間会 → 細いところのメソッド

・抱負というよりは助けたい気持ち(はか)でやるべき

・~~出資~~ 出資目的は勿論いいけど → リターン

・ふるさと納税 + 厚みにできる？

・財源が減る中でSIBは必要 → 行政に

・SIBは促進か自由かのかで決まる(お金の)

・24時間や生活費と管理できる

,

・おからめ
OEMで上座を譲り
らねよう
(くちかばり)

食団

王様の支援

システムつきの

王様の再構築

孤立支援

報支援

男性の幸福

孤独死

より多く 地域に与えるため
 「リターニはあみえ」 さいごの支援の手法
 活動の場が「あみえ」より、福祉×音楽
 かつあげみ人は誰なのか？
 支援の「ハイイ」があっても
 「リターニは 出資者向けのコンサート」
 へ 向き直らなければならない
 支援の 3x 補助金
 地域に与える 100万単位
 へ 支援の場にもあみえ
 「他人在住」
 「いっしょに 作りましようよ」

・イシ様書をつくり込むのではなく
 成果の可視化を重視していること
 がよい！

・市民に理解を得るには、
 市などからの保証が重要

：心配事

①市民に伝えて理解いただくこと ②出資

・ 50万×2件に予算1200万かかることの
妥当性。

・ “もあい”とつなげて説明するといいいので(よ)

↓
信頼にもとずき お金がかかる

感想
・ 社会がダイナミックな解決:

・ 成果型でいっていいけど...

お金のせいで...
どうしよう...

・ SIBをやるに
周知したかった

・ 東証でやりたい!

・ 社会には
とくめい人いいます

・ 「関係者人口」がふえる
のがいい!

・ 今からありか
きつたにたっている

から SIBをつくる
かも?

・ SIBの
あたらしい可能性
を感じた!

(小さいことで
いいんだ)

・ 市民が小さく
支援できるの
いい!

・ 学生でも
できる!

・ じゃあかん!

SIB なるには?

・ しはしめやすい名前?

・ お金じゃないバック?

・ お金をはらうだけじゃない

(笑) 投資するの
(ついでにやる、とか)

見せる支援

本当の仲間 → 高めるためのもの

ゆるく楽しい、つながり
とは芸術だと異なる

仲間づくりの 心ざかり①

選択肢 → えらぶかどうかは自由

独自でファンド集めるところもある

NPO → お金の話しづらい
志高い人たちが集まりたい
場所をつくったりしてる、

SIBを 会社の中の部分的に
使う。

1万円することですらライトに投資、応援する
地域に投資したい声がある